



## TX (つくばエクスプレス) の車窓から<sup>\*1</sup>

From the Window of the Tsukuba Express

本宮 精一<sup>\*2</sup>

Seiichi MOTOMIYA

(社)日本自動車工業会(JAMA)に出向して丸3年が経過しました。つくば市から東京の芝大門にある日本自動車会館(JAMAは16階と17階、JARIの東京事務所は12階)に電車で通勤しております。出向当初は、常磐線/荒川沖駅から上野駅経由で浜松町駅まででしたが、TXの開業から、ルートをつくば駅から秋葉原駅経由に変えました。これにより2時間以上掛かっていた通勤時間が30分ほど短くなりました。

既にご存知の方もおいでになるとは思いますが、TXの開業日(2005年8月24日)のエピソードをご紹介させていただきたいと思います。それは、開業当日の朝のことですが、テレビで開業式典のニュースを見てから予定の電車に乗るべくつくば駅に向かいました。駅に着いたら、既に周辺は大勢の人で、これまでに見たこともない賑やかさでした。改札口へ降りると(つくば駅は地下に位置します)予想以上の大変な人混みでした。これでは電車に乗れないのではと困惑しましたが、この人波は記念切符を求める鉄道マニアの方々と分かりましたので、少しほっとしながらホームに降り、何とか予定の電車に乗れました。偶然にも、JARIの杉浦理事と一緒にになりましたので並んで座り、初乗車となるTXについて車両の印象などを話していました。通勤時間帯の電車ですが、夏休み中であつたこともあり、車内の様子を撮すテレビクルーや開業記念に乗車する家族連れなどで直ぐに車内は満席となりました。

たまたま我々の前に毎日新聞の記者が居て、話を聞きつけ、インタビューされました。出発から

秋葉原駅までの45分間、理事と一緒に記者へ正直なところをいろいろ話しましたが、大した記事にはならないだろうと思っておりました。

午後の会議が終了し、夕方、席に戻りましたら、JARIの後輩からメールが入っており、今朝のインタビュー記事が実名でネットに出ているとの知らせでした。(残念ながら顔写真はありませんでしたが、内心ほっとしました)

急ぎ、浜松町駅に行き夕刊を見たところ、1面の真ん中に出ているではありませんか! 嬉しくなり、思わず親戚縁者への配布用に10部程求め、意気揚々と事務所に戻りました。

記事の見出しは、“通勤時間半減の会社員「飲み屋の開拓しようか」”でした。これには杉浦理事のコメントや多大な協力がありましたことを申し添えます。

さて、肝心な車窓からの眺めですが、記事にも出ているように開業当初は、沿線開発が本当に進むのだろうかと思うほど、茨城県や埼玉県のTXエリアの近くには大きな建物がありませんでしたし、帰宅時は漆黒の闇の中に場違いと思えるほどのモダンな駅舎がくっきりと浮かんでいる風景がとても印象的でした。また、いつもの電車には5分前であれば座席に十分な余裕があり、楽に座ることができました。

開業2年を経過した最近の状況は、鉄道の威力や利便性およびキャパシティを見せ付けるかのごとく、沿線にはマンション(億ションにはなっていないようです)や住宅が立ち並び、各乗換駅には必ず大型ショッピングモールが設置されており、加速的な開発も加わって日に日に大きく変貌しています。

パーク&ライドの形態が定着してきていること

\*1 原稿受理 2007年10月1日

\*2 (社)日本自動車工業会 技術統括部  
(財)日本自動車研究所より出向中)

も見逃せません。いつもの電車も5分前では座席に余裕が全く無くなり、始発駅から立つ人も増えて来ており、途中からの利用客も更に増えて大変混むようになりました。しかしながら、通勤時間帯以外では郊外電車の様相で、比較的ゆったりと乗車できるようです。先日、ダイヤが改正されましたが、比較的遅い時間帯の電車や終電のダイヤが改正前と同じため、守谷以北のつくば地区通勤者には恩恵が無かったように思います。今後、利用客の増大に伴い、つくば地区にも増発が見込まれますので、益々便利になることは間違いありません。

変貌する眺望の中で一番気になっていたのは、研究学園駅から見える巡回試験場の跡地やぼつんと置かれていた周回路の横風送風装置でした(3ヵ月程前に完全に撤去されましたが)。永い間、JARIのシンボルであった周回路を南北に等分する

ように線路が敷かれたのですからやむを得ませんが、学生時代に実験でバンクを走った思い出やJARIに入所してからこれらの施設を用いて実験していた若い頃が自然と脳裏をかすめます。特に、周回路の“雪かき”も入所したての頃の良い思い出となっています。この思い出多いテストコースの跡地にビルや住宅、マーケットなど、沢山の建物が立ち並んできていくことに時代の流れを感じているのは私一人だけではないと思います。

一方、素晴らしい眺めも得られます。冬季の晴れた早朝には凜とした筑波山、絵はがきのように雪をかぶった富士山の雄姿を見ることもあります。初夏の青葉から秋には田んぼの稲の稔り具合などが清々しい豊かな気持ちにさせてくれます。

さて、数年後の車窓からの眺めはどうなっていますでしょうか？ 楽しみです。